



5月を振り返って

5月の教職課程センターは、論文添削指導、教育実習のための模擬授業および指導案作成指導などを中心に活動を行ってきました。実際に皆さんと活動してみた感想は「見るとやるとは大違い」ということです。授業にしても論文にしても「実際にやってみる・書いてみることでしか実力は身につかない」ということでした。これから教育実習に臨む人もいます。不安な人は、ぜひ事前に模擬授業体験を積んでから本番に臨んでください。随時受付いたします。(メールしてください)

6月の予定

来月10日に迫った1次試験に向けての対応を強化いたします。論文に自信が持てない人は、この期間にぜひ何度も書いてみてください。論文のテーマの例は、「**学ぶことの意義を生徒に感じさせること**」「**主体的・対話的で深い学び**」「**学校がチームとして諸問題に対応していくこと**」「**基本的な生活習慣の徹底**」「**学ぶことの意義を生徒に感じさせること**」「**自分の考えを的確に表現する力を育む**」「**言語活動の充実を図り、言語能力の向上を目指す**」等です。たとえどんなテーマが出題されても対応できるように、複数のテーマで何回か書いてください。添削希望者は教職課程センターまで連絡してください。また6月～8月は採用選考直前の「**集団討論練習会**」「**個人面接練習会**」を実施いたします。詳しい日程・実施要項は別紙でお伝えしています。必ず参加してください。本番に向けてテンション上げていきましょう。予定は6月21日～23日、6月28日～30日、7月12日～14日、7月19日～21日、8月2日～4日、8月16日～18日です。特に7月28日～29日の2日間は外部の面接官経験者を講師にお招きして本番と同じ設定といたします。受験する4年生は必ず参加してください。

教育実習後の取り組み

既に実習が終わった皆さん。大変お疲れさまでした。慣れないことだらけで精神的にも肉体的にもしんどかったと思います。しかし教員以外でも「プロ」であるためにはそれなりの苦労はつきものです。ただ教師の場合は生徒から返ってくる評価があるので、その評価を励みに頑張ることができます。さて、実習後の取り組みは2つあります。1つがお礼状の郵送、もう一つは実習校への訪問です。

☆ 実習校へのお礼状の作成と郵送 ☆

- いつ出すのか 実習後1週間以内
- 誰に出すのか 校長、教科指導の先生、指導学級の学級担任の先生
- 内容は 相手によって内容は変わる
- 便せんに縦書き、直筆でインクは黒、ワープロ不可、メールは論外
- 項目は ①受け入れてくれたお礼 ②実習で学んだこと ③今後の生かし方 ④継続指導のお願いと結びのあいさつ

例：校長あて 拝啓、①先日はご多用中にもかかわらず、教育実習の機会を与您にいただき、誠にありがとうございました。②実習を通して教科の指導法だけでなく、生徒への対応の仕方など多くのことを学ばせていただきました。特に研究授業での〇〇〇の体験は私にとっての大きな財産になると考えております。③私は今年度東京都の教員採用試験を受けるつもりです。もし合格出来たら、この実習で学んだことを教員として実践していく所存です。④今後ともご指導いただけますようよろしくお願いいたします。最後になりましたが、先生方のご健勝と貴校の一層の発展を願っております。 敬具

教科指導、担任先生宛の場合 ①先日は大変お忙しい中、教科（学級指導）に対し熱心にご指導いただき誠にありがとうございました。

採用試験を受けない場合は、③私は民間企業に就職の予定ですが、生徒との関わりなど、この実習で教職の魅力に触れたことで、将来教職を目指してみたいという気持ちが芽生えました。 などで。

☆ 実習校への訪問 ☆

- いつ行くのか 実習後1か月以内
- 誰を訪ねるのか 副校長にアポを取り、校長の予定を聞いてから訪ねる。
- 内容は 感謝の気持ちを述べ、採用試験に向けての決意を伝える
- 持ち物は 手土産（職員の人数分）
手土産は必須ではありません。高価な物を用意する必要もありません。持参できればベターという程度です。
- 校長 ⇒ 副校長 ⇒ 指導教諭・学級担任 ⇒ 事務・用務主事の順に挨拶する。皆忙しいので時間は短めで。

論文作成用資料、面接対策用資料について

☆令和4年度版の論文作成用資料、面接対策用資料が完成しました。ダイジェスト版は、この教職課程センター通信でも紹介していますが、詳しい資料が必要な方は、教職課程センターまで連絡してください。直接来ていただけた方には内容について個別に詳しく説明させていただきます。

- 論文作成用資料【教員採用選考論文の構成と作成方法について】
- 面接対策用資料【面接選考への対応】

論文は、校長等の教育管理職が読み、内容を評価採点します。その際に評価者が注目する項目は決まっています。それらの項目が記述されているかどうかを、評価規準に照らして採点いたします。合格論文作成に必要な項目と、評価規準は以下の通りです。論文は受験者の人物像や考え方を把握する審査で、論文だけで合否は決まりませんが、論文審査に合格しないと最終の面接選考に進むことができない場合が多いので、必ず突破する必要があります。

【論文に盛り込む必要がある項目】と【項目に関する評価規準】

| 論文に盛り込む必要がある項目 | 項目に関する評価規準 |
|-----------------|----------------------------|
| 教師としての適性・教職への理解 | 同じ職場で働きたいと思えるか、子どもから信頼されるか |
| 教科指導に関する専門性 | 指導教科の専門性を有しているか |
| 論理的思考力 | 論理が明快で、迷いや矛盾がないか |
| 指導力（実行力）【教科・生活】 | 指導方針が明確か |
| 今日的教育課題への理解・姿勢 | いじめ・不登校等の実態の理解と対応策が示せるか |
| 熱意・使命感 | 教師になりたいという強い意志が感じられるか |
| 子どもに対する愛情 | 子どもをかけがえのない存在として見ているか |

教員採用選考における面接は、校長または自治体の管理職が複数名（3名が多い）で担当し、受験者が教員としての適性を備えているか、総合的に判断するための審査です。

報道でご存じのように、教員による服務事故（体罰・わいせつ行為・個人情報紛失など）がなかなか減らないことや、授業力不足で生徒や保護者からの信頼を得られない教員が問題になるケースが減らないため、各自治体での面接の際にも「不適格教員となりそうな受験者は絶対に採用しない」という方針は徹底されています。

逆に考えれば、教員としての資質・能力が備わっていれば、面接の際に、それらを強くアピールすることで、合格を勝ち取ることができます。面接は「自己アピールの場」と考えて、積極的に発言することを心がけてください。面接でアピールすべき項目と、評価規準は以下の通りです。

【面接でアピールすべき項目】と【項目に関する評価規準】

| 面接でアピールすべき項目 | 項目に関する評価規準 |
|---------------------|----------------------------|
| 教師としての適性・教職への理解 | 同じ職場で働きたいと思えるか、子どもから信頼されるか |
| 教科指導に関する専門性 | 指導教科の専門性を有しているか |
| 人柄・人間的魅力 | 明るさ・前向きさ・意欲・強い意志・熱意・使命感 |
| 今日的教育課題への理解・姿勢 | いじめ・不登校等の実態の理解と対応策が示せるか |
| 対応力・適応力・職務遂行力 | 状況を判断し、正しい行動ができるか |
| 将来性・協調性 | 向上心を持って職務に臨めるか、周囲と協調できるか |
| 心身の健康・レジリエンス（打たれ強さ） | ストレスに対して耐性があるか、持久的体力があるか |

子どもの学力の定義は、時代とともに変遷を繰り返してきました。学校現場もその都度変化に合わせて対応してきたのです。そのため、過去の学力観の変化を知り「未来を生きる子どもたちに、どのような力を身につけさせていけばよいのか」と考察することは、教師を続けていく上で、絶対に必要な取り組みです。今回は学力の定義の変遷を振り返り、さらにこれから必要とされる学力観について考えていきましょう。

- ① 揺るぎない基礎・基本
- ② 思考力、表現力、問題解決能力
- ③ 生涯にわたって学び続ける意欲
- ④ 得意分野の伸長
- ⑤ 旺盛な知的好奇心、探求心

平成 17 年 文部科学省白書

- ① 学びの基礎となる、基本的な生活習慣、学習習慣、読書習慣、体力
- ② 基礎的・基本的な知識・技能、知的好奇心、豊かな情操、学ぶ意欲・態度、忍耐力、チャレンジ精神
- ③ 基礎・基本を応用し、課題を発見。自ら考え、判断・解決する能力、志、公共心、社会性、他者を理解し思いやる心
- ④ それらを実社会や職業生活で生かしていくための行動力、協調性、コミュニケーション能力、思考力、創造力、リーダーシップ
- ⑤ イノベーションを生み出すための高度な独創性、専門性、国際性

平成 19 年 教育再生会議 第二次報告

- ① 基礎的・基本的な知識・技能
- ② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- ③ 主体的に学習に取り組む態度

平成 19 年 学校教育法

確かな学力：知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する**資質や能力**等まで含めたもの。（判断力、表現力、問題解決能力、学ぶ意欲、知識・技能、学び方、課題発見能力、思考力）

平成 25 年 文部科学省

育成すべき**資質・能力**について 【資質・能力の要素】

- ① 何を知っているか、何ができるか（個別の**知識・技能**）
- ② 知っていること・できることをどう使うか（**思考力・判断力・表現力**等）
- ③ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（**学びに向かう力、人間性**等）

平成 27 年

文部科学省



この3要素を「意図的に関連付けながら」、授業という取り組みを通して、生徒に「実感させる」ことがこれからの教師に強く求められています。皆さんにはぜひ「スキルだけでなく、マインドを持った教師」になってほしいです。そのための支援は惜しみません。